

二種混合または三種混合のどちらかを接種できます

全国的に長引く咳を特徴とする学童期・思春期・成人期の百日咳患者が増加傾向にあり、乳幼児等への感染源となる危険性が生じています。百日咳は感染力が非常に強く、混合ワクチンを既定回数接種していても発症することがあり、新生児や乳幼児がかかると重症化しやすく、家族間での感染予防が重要とされています。

特に、百日咳ワクチンの効果が減弱する5～15歳の小・中学生世代に患者の集積が認められることから、阪南市では11歳から13歳未満で接種する二種混合ワクチンの代わりに、三種混合ワクチンでも追加接種できることとしました。(日本小児科学会推奨)



1. 二種混合と三種混合の違い（二種混合または三種混合のどちらかを選択してください。）

	二種混合ワクチン	三種混合ワクチン
根拠法令	予防接種法（定期予防接種）	なし（任意予防接種）
混合ワクチン種類	ジフテリア 破傷風	ジフテリア 破傷風 百日咳
対象者	11歳～13歳未満で、本市助成の三種混合ワクチン未接種の者	11歳～13歳未満で、定期接種の二種混合ワクチン未接種の者
接種期間	11歳の誕生日の前日から13歳の誕生日の前日まで ※小学校6年生での接種を推奨します。	
回数等	1回（皮下接種0.1ml）	1回（皮下接種0.5ml）
医療機関	泉佐野泉南医師会委託医療機関	阪南市内委託医療機関
費用	自己負担金無料	助成額上限 5,137円
支払方法	代理受領（保健センターから委託医療機関に接種費用を支払います。）	
	原則、委託医療機関での接種となります。	委託医療機関以外で接種した場合は、申請に基づき償還払いにより還付します。
持参品	母子健康手帳、健康保険証・資格確認証・マイナンバーカードと資格情報のお知らせのいずれか（保護者（親権者）と接種者の本人確認できるもの） ※予診票、「予防接種と子どもの健康（説明の冊子）」は医療機関にあります。 ※保護者（親権者）の同伴が必要です。保護者以外が同伴する場合、委任状が必要です。	
健康被害救済措置	予防接種法による「予防接種健康被害救済制度」 ※医療費、医療手当、障害児養育年金、障害年金、死亡一時金、葬祭料、介護加算 ※阪南市が予防接種健康被害調査委員会を立ち上げ対応します。	独立行政法人医薬品医療機器総合機構（PMDA）法による「医薬品副作用被害救済制度」「生物由来製品感染等被害救済制度」に基づく救済、阪南市予防接種事故災害補償規程に準じて「全国市長会予防接種事故賠償補償保険」にて対応 ※医療費、医療手当、障害児養育年金、障害年金、遺族年金、遺族一時金、葬祭料 ※副作用によって重篤な健康被害を受けた本人又はその遺族が直接PMDAに対して請求します。

2. 注意事項

- ・体調の良い時に接種しましょう。
- ・治療中の病気がある人、重度のアレルギーがある人は、かかりつけ医にご相談ください。
- ・予防接種を受けられる方は、事前に医療機関に連絡してください。
- ・発熱や接種部位の腫脹（はれ）がないこと、体調が良いことを確認し、かかりつけ医に相談の上、接種を受けてください。

3. 他のワクチンとの接種間隔

- 異なる種類のワクチンを接種する際、接種間隔に制限はありません。

4. 阪南市内委託医療機関

医療機関名	所在地	電話番号	二種混合	三種混合	医療機関名	所在地	電話番号	二種混合	三種混合
笠松産婦人科・小児科	鳥取中 192-2	471-3222	○	○	阪南市民病院 (小児科)	下出 17	471-3321	○	○
阪口クリニック	箱作 3505-2	481-3939	○		松若医院	舞 3-31-23	471-1521	○	○
たか内科小児科クリニック	さつき台 1-2-1	472-4976	○	○	みなみ小児科	鳥取 617-1	472-7239	○	○
中井医院	尾崎町 8-1-2	471-7376	○	○	みやけファミリークリニック	黒田 387-1	473-7176	○	○
ながまつレディースクリニック	鳥取 628-1	472-3788	○	○	向井医院	鳥取中 299-1	472-0303	○	○

5. シフテリア・破傷風・百日咳の病気の説明

*シフテリア

シフテリア菌の飛沫感染（せき・くしゃみ等）で起こります。感染は主にのどですが、鼻にも感染します。症状は高熱、のどの痛み、犬が吠えるようなせき、嘔吐等です。偽膜と呼ばれる膜がのどにでき窒息死することもあります。発病後 2～3 週間後には菌の出す毒素によって心筋障害や神経麻痺を起こすことがあります。

*破傷風

破傷風菌はヒトからヒトへ感染するのではなく、土の中などにいる菌が傷口からヒトの体に入ることによって感染します。菌が体で増えると、菌の出す毒素のため、筋肉の強直性けいれんを起こします。口が開かなくなるなどの症状で気づかれ、やがて全身の強直性けいれんを起こすようになり、治療が遅れると亡くなることもある病気です。土の中に菌がいるため、感染する機会は常にあります。

*百日咳

百日咳菌の飛沫感染で起こります。百日咳は、普通の風邪のような症状ではじまり、続いて咳がひどくなり、顔を真っ赤にして連続的に咳き込むようになります。咳の後に急に息を吸い込むので、笛を吹くような音が出ます。熱は通常出ません。肺炎や脳症などの重い合併症を起こすこともあります。

6. 三種混合・二種混合の副反応等

*医療機関からの副反応の疑い例として報告の重篤症例の発生頻度は、三種混合 0.0017%、二種混合は 0.0002%となっています。重い副反応はなくても、不機嫌、腫れが目立つときは医師にご相談ください。

*三種混合ワクチンの副反応等

局所の発赤、腫脹、水疱、疼痛、硬結等、全身反応として発熱、不機嫌等を認めることがあります。ときに接種後数日を経過してから局所の発赤、腫脹を認めることもあります。またアルミニウムゲルを含む沈降ワクチンですので、小さい硬結が1カ月くらい残存することがあります。2回以上の接種者には、ときに著しい局所反応を呈することがありますが、通常数日中に消失します。（2024 予防接種に関する Q&A 集より抜粋）